

第4回地域連携発表会 ～ 地域とともに。学び・活動する大学 ～

開催報告

平成29年3月3日、地域連携センター主催で「第4回地域連携発表会～地域とともに。学び・活動する大学～」を開催しました。教員による連携事例発表、各講師を囲む座談会、そして学生・院生による地域連携に関するポスター発表を行いました。64名の参加があり、行政関係者や各種団体など、さまざまな立場の参加者が意見交換を行うとともに、学生の参加も多くあり、地域連携に取り組む学生同士の交流の場にもなりました。

教員による地域連携事例発表

■にしなりの「知りたい・伝えたい」をつなぐ

発表者：水内 俊雄教授（都市研究プラザ）

連携先：西成区役所

内 容：地域連携センターが西成区より委託された「西成情報アーカイブネット企画運営事業」で行っている、地域の写真・記録収集や、資料展示・ワークショップなどの取り組みについて紹介しました。



▲水内教授による発表

■市民のスポーツ実施率向上のための取り組み

発表者：渡辺 一志教授、岡崎 和伸准教授、横山 久代准教授、今井大喜講師、鈴木 雄太助教（都市健康・スポーツ研究センター）

連携先：大阪市経済戦略局スポーツ部

内 容：スポーツ無関心層を対象としたワークショップや、スポーツ体験見本市など、都市健康・スポーツ研究センターが経済戦略局スポーツ部との包括連携協定のもとに行った活動について報告がありました。



▲都市健康・スポーツ研究センター教員による発表

■地域住民と共に考え、活動する町づくり

発表者：春木 敏教授（生活科学研究科）、

高田 守康(生活科学研究科 前期博士課程1年)、

築 明日香(生活科学研究科 前期博士課程1年)

連携先：住吉区 遠里小野自治会・小学校 依羅自治会

内 容：生活科学論ゼミナールにて行った、住吉区での自転車事故を防ぐ取り組みなどについて、実際に活動を行った学生とともに発表がありました。



▲春木教授による発表

学生・院生による地域連携に関するポスター発表

今回のポスター発表は、過去最多となる7事例、9名による発表となりました。内容や分野も多様であり、来場者の関心も非常に高く、学生もこれに応じて熱心に発表を行いました。

1. 大阪市の放課後事業の実態と変遷—居場所の多様性の構築に向けて—
(文学研究科 梅田 堅司)
2. 切れ目のない子育て支援をめざした巡回母乳子育て教室の取組の効果検証 (看護学研究科 中尾 由紀美)
3. 大阪市を対象とした大規模災害時の徒歩帰宅行動のシミュレーション
(工学部 川岸 裕)
4. リノベのある町 生ける大正 (工学研究科 切山 直子)

▼ポスター発表の様子



5. 新たなつながりの創出へ、住吉文化フェスティバル
(大阪市立大学新聞 Hijicho 丹下 舜平・新宅 慶騎)
6. 乳幼児の保護者に対する小児一次救命処置(PBLS)講習会を開催して
(医学部 長井 保憲・加藤 きみ佳)
7. 文学研究科日本史教室と和泉市教育委員会による合同調査の取り組み
(文学研究科 道上 祥武)



ポスター発表の様子▶

テーマ別座談会

事例発表の各講師を囲んで座談会を行いました。テーマごとに分かれた各テーブルでは、連携に至った経緯や事業内容の詳細など、さらに詳しい内容についての紹介がありました。また、今後の連携のあり方についての議論が交わされていました。



座談会テーマ1
「情報アーカイブ」▶

ポスター発表表彰式・閉会あいさつ

ポスター発表の中から、特に優秀な発表に対して地域連携センター所長賞と副所長賞を授与しました。所長賞は文学研究科の道上祥武さんが、副所長賞は文学研究科の梅田堅司さんと工学研究科の切山直子さんがそれぞれ受賞しました。

最後に、本学荒川学長より閉会の挨拶があり、学生が行う地域活動を応援する取り組みを来年度から新たにスタートすることなど、学生や教員による地域連携へのさらなる期待が述べられました。



▲表彰式

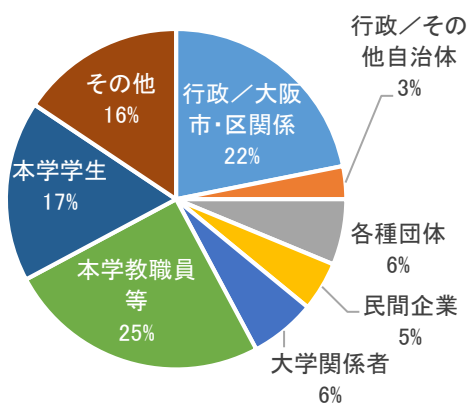


▲所長賞・副所長賞受賞者



▲荒川学長による閉会挨拶

<参加者内訳>



<参加者からの感想・意見(抜粋)>

- ・地域・大学・行政で互いに連携したい。共催・協働の事業が増えていけば、接点も増えるのでは。
- ・大学と連携することによって、地域にとってどういうメリットがあるのかを知りたい。そういう観点からの発表があっても良いではないか。
- ・大学周辺に限らず、市域全体にターゲットを広げた地域貢献事例を聞きたい。
- ・(テーマ1「情報アーカイブ」について) 座学と組み合わせたまち歩きがしたい。
- ・(テーマ2「健康・スポーツ」について) 対象となる人がアイデアを出す、という目のつけ処(が面白い)